

2022年度 第2回 環研カンファレンス

「生命現象理解へ向けた多階層アプローチ」

日時：2022年12月16日（金） 午後2時00分～5時00分

開催形式：ハイブリッド（環境医学研究所・南館大会議 & Microsoft Teams）

南館大会議室での参加者数は、先着順に20名程度とさせていただきます。

Microsoft Teamsへは事前に全環研教職員のメールアドレス（R4. 7. 1時点）を登録させていただきます。また2022年度第1回環研カンファレンスにてご登録いただいたメールアドレスについては再送の必要ございません。その他に参加を希望される方は、事前に下記までメールアドレスを送信してください。

E-mail: horigane@riem.nagoya-u.ac.jp

演題1 「カルシウムシグナリングによる神経回路形成の制御」

堀金 慎一郎（名古屋大学・環境医学研究所・神経系分野Ⅰ 講師）

胎生期の脳内において、新たに生まれた神経細胞は遠く離れた目的地へと正確に移動した後に、神経突起を介した複雑な細胞間ネットワークを獲得してゆく。本セミナーでは、こうした一連の神経回路形成過程におけるカルシウムシグナリングの意義について論じたい。

演題2 「哺乳類ニューロンにおけるオルガネラの多面的役割」

平林 祐介（東京大学・工学系研究科・神経細胞生物学研究室 准教授）

近年、神経細胞内において様々なオルガネラが部位特異的に多様な形態を取ることや、多くのオルガネラ間接触の存在が明らかになってきた。本セミナーでは、神経細胞内でのオルガネラ機能の多様性やオルガネラ間接触の役割について論じたい。

演題3 「DNA損傷によるエピゲノムを介した老化速度制御機構」

早野 元詞（慶應義塾大学・医学部・精神神経科学教室 特任講師）

DNA損傷によるエピゲノムを介した老化制御モデルである"ICE" (for Inducible Changes to the Epigenome)を構築した。ICEマウスでは臓器特異的エピゲノムの喪失が誘導される(Yang and Hayano et al., *Cell*, in press)。一方で、山中因子 OSK の誘導によってメチル化 DNA が改善する。本セミナーでは Rejuvenation の可能性と、老化を標的としたイノベーションについて議論する。

演題4 「早期エンドソームの膜蛋白輸送機能異常が引き起こす先天異常症候群の分子病態」

加藤 耕治（名古屋大学・環境医学研究所・発生遺伝分野 特任助教）

早期エンドソームではエンドサイトーシスにより取り込まれた細胞膜蛋白の運命決定を行っており、配列依存性に特定の膜蛋白を細胞膜へリサイクルする。この機能異常は多様なヒト疾患との関連が知られており、本セミナーでは特に先天異常症候群の分子病態に関して議論する。

今回は外部講師の先生を2名お招きし、拡大版の環研カンファレンスを開催いたします。また環研内部からも2名の先生にご講演をいただきます。これまでと同様に気楽な会を考えておりますので、皆様是非ご参加ください。